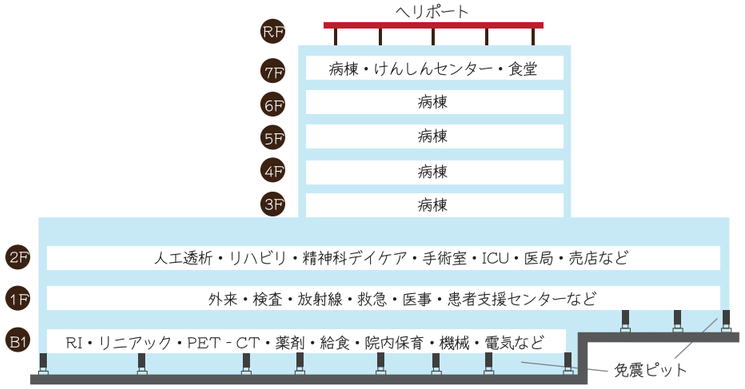
●建物案内●



●付近地図●

●交通アクセス●

- ●JR 南小樽駅から徒歩約２分
- ●小樽 IC から車で約５分
- ●中央バス　市内線バス停「住吉神社前」から徒歩約３分
  ぱるて築港線バス停「市立病院前」から徒歩約１分
- ●高速バス　バス停「住吉神社前」から徒歩約３分

小樽市立病院
OTARU GENERAL HOSPITAL
小樽市若松１丁目１番１号　TEL 0134(25)1211　FAX 0134(32)6424

小樽市立病院
OTARU GENERAL HOSPITAL

ごあいさつ

小樽市病院事業管理者
病院局長　**並木 昭義**

新小樽市立病院は、２つの市立病院を統合・新築し、念願かなって平成 26 年 12 月１日に開院しました。新病院の目標は、質の高い、信頼・安心できる医療を小樽市民だけではなく後志の住民にも提供することです。

その実現のためには、高度な設備、高機能な医療機器と情報システムの設置、多くの診療科をそろえる総合的診療体制のとれる地域完結型病院を目指すことであります。

また、新病院の役割は、高度の医療ができる急性期病院であり、救急、災害医療体制を整え、さらに予防医学にも力を注いでいくことだと考えます。そして地域医療の中心的役割を担うため、地域の医療機関や保健・福祉分野との連携を進め、支援・協力関係を築いていきます。

医療者には医療知識、技術の研さん、チーム医療への参加、サービス精神を持つことが求められています。これを実施するためには教育・人材育成が必要であります。これにより医療者は生き生きと働き、医療の質が高まり、患者さんや・市民の皆さんから高い評価が得られ、そして、健全な病院経営につながるという好循環が形成されます。新病院は、小樽教育発祥の地でもある風光明媚な場所に建てられています。小樽のシンボル的施設として、市民に愛され、希望と幸福をもたらすものになると信じております。

小樽市立病院
院長　**近藤 吉宏**

新小樽市立病院が平成 26 年 12 月 1 日に開院しました。２つの病院を統合新築し、交通アクセスも良いこの地に開院できましたことは皆様にも喜んでいただけるものと考えております。

新病院では、がん診療、脳卒中、心臓血管疾患、認知症の 4 領域を診療の大きな柱に据え、良好な医療環境のもとに、最新・最良の医療を提供し、効率的な病院経営を行うことを目指しています。

がん診療においては、小樽・後志唯一の PET−CT と高精度な放射線治療が可能なリニアックを導入しました。この地域にとってこれらを活用した治療を行えるようになったことは、大きな意義があると思います。脳卒中・心臓血管疾患においては３ T−MRI、ハイブリッド手術室を導入し、より一層精度の高い診断と安全で高度な医療を提供できることになりました。

この地域の基幹病院として、診療科の充実、災害・救急医療、予防医学も当院の重要な役割と認識しています。ヘリポートには後志各地から救急患者が搬送され、急性期中核病院として日々進化していることを実感しています。

これからは、病院完結から地域完結へ、そして医療と介護の連携が大きなテーマとして掲げられています。この小樽・後志が皆様にとって安心して住むことのできる地域であるよう、当院も他の医療機関と連携し貢献していきたいと考えております。

基本理念

小樽市立病院は、市民に信頼され質の高い総合的医療を行う地域基幹病院を目指します。

基本方針

1. 患者の人権を尊重し、患者中心の医療を行います。
2. 病院の運営は急性期医療を主体とし、救急・災害医療の充実に努めます。
3. 質の高い医療を実践するため、患者サービスの充実、医療安全の確保、チーム医療の推進および人材の育成に努めます。
4. 地域の医療機関や保健・福祉分野との連携を進め、地域医療を支えます。
5. 健全で自立した病院経営に努めます。

診療の３つの柱

がん診療	脳・神経疾患診療	心・血管疾患診療

● がん診療

「がん診療」は当院における診療の柱の一つです。平成２５年４月には「北海道がん診療連携指定病院」の指定を受けています。

旧病院のときから後志２次医療圏唯一のリニアックを保有し、地域のがん診療の中核を担ってまいりましたが、新病院では最新の機能を有する機器を導入し、がんの標準的治療はもとより、緩和ケア体制の構築やがん相談体制の充実に努め、また、必要な人材の確保や設備の充実を図っていきます。

● 救急医療

高齢化の進展により患者さんの増加が予測される救急医療については、夜間急病センターや診療所など、地域における一次救急医療機関との連携のもと、地域輪番制の中で他の二次救急医療機関との役割分担を行いながら積極的に行っていきます。

このため、ヘリポートの設置など施設面での充実を図るとともに、各診療科の協調体制を構築し、他の医療機関から依頼される重症患者さんや対応の難しい診療科目の受入れのほか、きわめて緊急性の高い脳･神経疾患や心･血管疾患の患者さんなどを、常時スムーズに受け入れられる体制の整備に努めます。

また、災害拠点病院としての施設・設備・運営体制の整備に努めます。

２つの特性

他の医療機関で担うことのできない疾患の診療
（専門外来や入院治療など）

地域医療連携のセンター機能
（地域医療連携の調整や医師教育支援の取り組み・医療連携システム「ID-LINK」の活用など）

専門センター

消化器病センター

４階病棟に外科、消化器内科を配置し、消化器病センターとして集約しました。両科は、これまでも放射線診断医、病理医とともに術前術後カンファランス、キャンサーボード等緊密な連携のもとに診療を行ってきましたが、より一体となって消化器疾患の診療を行う環境が整いました。看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士等を含め、チーム医療を行っていく上でも横断的、継続的な診療が可能になります。

地域における中核基幹病院として、重症、難治性の消化器疾患の診療に大きな役割が求められると考えており、関連診療科の協力や連携を密にしながら対応していきます。

心臓血管センター

当センターは、循環器内科と心臓血管外科、集中治療室 3 床を含む専用病棟からなり、それぞれの緊密な連携のもと 24 時間、365 日、救急患者の受け入れを行っています。一刻も早く治療を開始しなければ命に関わるような心筋梗塞などの疾患に対する緊急カテーテル治療や緊急開胸手術を、いつでも実施できる体制が整っています。この地区の心臓血管治療の中核病院として、一人でも多くの患者さんの命を当センターで救うことができるように、スタッフ一同全力で取り組んでいきます。

脳卒中センター

脳卒中には緊急の対応が必要です。脳卒中センターでは、常勤専門医が 24 時間 365 日、全てのタイプの脳卒中に対応します。緊急の開頭術から、発症 4.5 時間以内の脳虚血に対する t-PA 静注療法、血管内治療による血栓溶解や血栓吸引などの再開通療法も常時対応可能です。厚生労働大臣の定める施設基準を満たす脳卒中ケアユニット（Stroke Care Unit: SCU）を脳神経外科病棟内に設け、多職種からなるチームで、より質の高い医療を提供します。

認知症疾患医療センター

当院は、北海道内で 18 医療機関が指定されている「北海道認知症疾患医療センター」の指定を受けています。このセンターは、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図ることを目的に設置されています。当院認知症疾患医療センターでは、保健医療･介護機関等との連携を図りながら、認知症に関する鑑別診断、急性期治療、専門医療相談を実施するとととともに、地域保健医療・介護関係者の研修などを行うことにより、地域における認知症医療への貢献を目指します。

ハイブリッド手術室

質の高い医療を提供していきます

小樽・後志地域の基幹病院としての役割を担うため、高度な設備、高機能な医療機器を設置しました。

多くの診療科を持つ総合的な診療体制のとれる地域完結型医療の中核となる病院を目指します。

PET−CT 検査

PET−CT

通常の PET 検査は、ブドウ糖類似物質を体内投与し、その分布の投影により、がん病変の診断を行います。

今回導入した PET−CT 装置は、上記に加え鮮明な CT 画像を融合することで、詳細に腫瘍の大きさ、位置を捉えることができ、がんの正診率が向上します。

一度の検査でほぼ全身を調べることができ、原発不明がんの診断や早期発見、病期診断、転移、再発の診断にも重要な検査とされています。

診断のほか、市民向けの検診も行っています。

リニアック

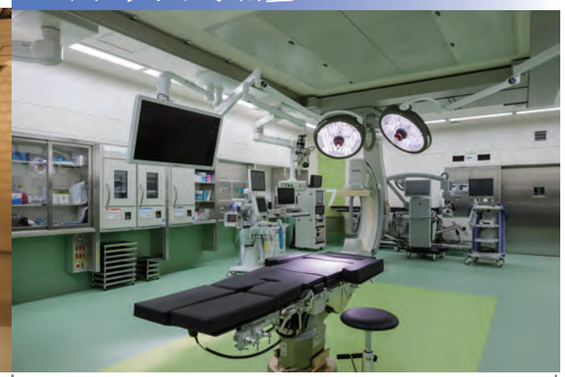
様々な革新技術を備えた IGRT（画像誘導放射線治療）用リニアックです。本体に CT 画像を撮影できる装置を装備、さらに 4 次元 CT 画像の撮影機能も備え、照射直前に腫瘍の位置を 4 次元で把握することも可能。また 6 軸制御が可能なロボット天板を備え、撮像した CT から算出された位置誤差を自動で補正し、高精度な放射線治療を実現します。

患者さんに最適な放射線治療が小樽市内でも可能となりました。

3 T(テスラ) MRI

新病院では従来の 1.5T(テスラ)MRI に加え、最新の 3T MRI を導入しました。より強い磁力を使うことで、高精細な検査や短時間での検査が可能となり、患者さんの様々なニーズに沿うことができるようになりました。また、今回導入した装置は、間口が広く作られているため、圧迫感の軽減や検査体位の制限が緩和されています。

ハイブリッド手術室



手術室の 1 室にハイブリッド手術システムを導入しました。このシステムは、心臓血管外科や脳神経外科などの全ての外科手術に対応可能な最新手術台に X 線血管造影装置を組み込んだハイブリッド手術システムであり、血管 3D ナビゲーションによる外科手術支援も可能になりました。

内科 ー 糖尿病

糖尿病専門医が患者さんひとりひとりのライフスタイルに合った治療を行っています。

糖尿病治療に必要な知識の習得を目的とした「糖尿病教育入院」を行っており、最新の治療薬の導入やインスリンから内服薬への変更を積極的に行っています。糖尿病合併症予防のための透析予防指導や糖尿病足病変予防のためのフットケア外来も開設しています。

内科 ー リウマチ・膠原病

関節リウマチや膠原病などのリウマチ性疾患に対して、関節エコーや免疫抑制薬・生物学的製剤を用いた専門性の高い診療を行っています。常勤医による外来診療に加えて、第2・4 金曜日は札幌医科大学消化器・免疫・リウマチ内科の専門医（出張医）による外来も行っています。

内科 ー 腎臓

無症状のまま腎臓病が進行し、終末期を迎えていく患者を減少させるために、①腎機能の適正評価、②病初期からの腎生検を含めた早期診断、③血管炎のステロイド及び免疫抑制剤による治療、④保存期腎臓病のチーム医療、⑤透析医療 の５つのテーマに取り組んでいます。

呼吸器内科

市中肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、喘息や肺癌、びまん性肺疾患など多岐にわたる疾患に対応しています。

特に当院では肺癌の診断および治療において必要な PET−CT と放射線治療装置が備えられており、充実した肺癌診療を提供しています。

消化器内科

内視鏡とがん診療を重点的に行っています。

内視鏡では拡大内視鏡、小腸内視鏡、カプセル内視鏡、超音波内視鏡下生検、早期がんに対する内視鏡治療など専門性の高い診療を行っています。がん診療では科学的根拠の高い治療を提供しています。常に、新しく、質の高い医療を提供できるよう努めています。

循環器内科

常勤２名と非常勤１名で入院では急性期医療中心に、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、ペースメーカー治療を、外来では高血圧、脂質異常症、糖尿病および禁煙指導など動脈硬化性疾患を重点的に診療しています。世界的に最も低侵襲なカテーテル検査・治療を行っています。

神経内科

平成 26 年４月から旧病院で診療を開始しました。

いずれの分野でも高齢化社会特有の疾患構造になっていますが、様々な診療手技が普及しつつある現在、関連診療科と協力して市立病院としての脳神経診療の確立に努めていきます。

外科

一般外科疾患を対象とし、①食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵疾患に対する外科的治療、②甲状腺、上皮小体、乳腺疾患に対する外科的治療、③鼠径ヘルニア、痔核根治術および内痔核硬化療法、④自然気胸に対する嚢胞切除術、⑤乳房温存療法後の放射線治療などを実施しています。

心臓血管外科

循環器内科と連携し、24 時間体制で最適な医療を提供します。ハイブリッド手術室の導入で、大動脈瘤や下肢動脈硬化性疾患に対し、飛躍的に低侵襲な治療が可能となりした。

札幌医科大学の関連施設として、大学と連携し最新の高度な治療を提供します。

脳神経外科

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血をはじめとした脳卒中から、脳腫瘍、脊髄・脊椎疾患や特発性正常圧水頭症など、あらゆる脳神経外科疾患に幅広く対応します。特に超重症例や合併症を有する患者さんの治療にも他科との連携の下、積極的に取り組んでいます。

整形外科

平成 27 年 4 月より、入院施設を設けた診療を再開しました。現在は上肢、下肢、股関節、脊柱、腫瘍など各分野における専門的な診療、手術治療を含めた総合的な医療が可能となりました。基礎疾患や合併症のある場合でも、各科と連携し、早期の社会復帰を目指します。

形成外科

体表面の異常に対し手術を中心に治療しています。対象疾患は皮膚、皮下の腫瘍、熱傷や顔面骨折を含む外傷、褥瘡など難治性潰瘍、体表の先天異常、様々な再建などです。眼瞼下垂、腋臭症は健康保険を適応しています。

疾患によっては日帰り手術にも対応しています。

精神科

４ 名の常勤精神科医師が一般精神科診療を行っています。診療の対象は児童思春期から老年期と幅広く、急性期治療から作業療法やデイケア等まで、社会復帰を目標に一貫した治療が可能です。

また、総合病院の精神科として他科への往診診療も行っています。

小児科

子供の病気全般を診る一般外来と専門外来（心臓外来、神経外来）及び乳児健診・予防接種外来があります。院内他科への紹介や、専門分野の高次病院との緊密な連携を行っています。

子供のどんな病気の相談もお受けしますので、お気軽にご相談下さい。

泌尿器科

前立腺がん、膀胱がんほか泌尿器科がんの診断、手術、薬物治療を行っています。副腎腫瘍、腎腫瘍に対しては鏡視下手術も行います。前立腺肥大症や神経因性膀胱による排尿障害や尿失禁治療、尿路結石に対する体外衝撃波結石破砕や内視鏡による治療も行っています。

婦人科

子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫などの良性疾患や月経困難症、女性ホルモン欠落症状など、婦人科領域の多岐にわたる疾患に対して診療を行います。婦人科悪性腫瘍（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど）の検診・診断及び他科や専門施設との連携のもと、適切な集学的治療を行います。

眼科

白内障から糖尿病網膜症の患者さんまで、常勤医師 2 名で幅広く診療を行っています。

また、後志地域では唯一、硝子体手術を行っており、網膜前膜、黄斑円孔、網膜剥離などの疾患にも対応しています。

今後とも患者さんのご紹介、よろしくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科全般の疾患はもちろん、頭頚部腫瘍及び甲状腺腫瘍の診断、治療、手術を行っています。めまいや急性扁桃炎など、緊急の入院を必要とする症例にもできるだけ対応します。ハイビジョン NBI 内視鏡、PET−CT を導入しており、頭頸部癌の早期発見、早期治療にも貢献したいと思います。

放射線診断科

画像診断、とくに CT、MRI 等の高度診断装置を駆使した病変病態評価を行います。

小樽・後志管内で唯一の核医学（ＲＩ）検査施設でもあり、PET−CT も新規導入しました。

各検査は地域で幅広い利用をすすめていきます。常勤医師 2 名体制となり、IVR にも対応します。

放射線治療科

放射線治療科では高エネルギーＸ線や電子線を照射し、がんの治療を行います。

最新の放射線治療機器の導入により、患部への精密な照射が可能となり、より副作用の少ない治療ができるようになりました。小樽・後志管内唯一の放射線治療施設です。

病理診断科

全診療科の患者さんの各種の生検組織、手術組織を対象とした病理組織学的検索を行い、患者さんの病気の病理診断を担当しています。

また、治療のかいなく不幸にも亡くなられた患者さんの剖検が行われた際には、剖検症例の病理診断を行っています。

麻酔科

ペインクリニックは、帯状疱疹後神経痛、上肢・頸部痛、腰下肢痛、頭痛・顔面痛、顔面痙攣など、痛みのコントロールが困難な患者さんの診断・治療を行っています。

緩和医療では、がん患者さんに対する緩和ケアを外来診療から看取りまで行っています。

けんしんセンター

けんしんセンターでは各種検診に総合的に対応しています。日帰り人間ドックをはじめ一般的な健康診断、特定健診、がん検診も行っています。この他、メタボ検診、動脈硬化健診といった、気になるポイント健診やプチ検診、さらに微少ながんを見つける PET-CT による「がん総合検診」もメニューを充実し実施しています。

出張医による診療

皮膚科、放射線治療科、内科専門外来（血液）、消化器内科専門外来（肝臓）は、出張医による診療を行っています。

※説明文中に医師数の表記のあるものは、
平成 27 年 7 月 1 日現在のものです。

臨床研修

画像読影室

手術室

経験豊富なスタッフと最新鋭機器が
配備された環境で、臨床研修を実践

当院は、平成 26 年 12 月の新築移転を機に、最新型血管造影装置を備えたハイブリッド手術室や 3T MRI 装置、PET−CT など先端的機器が新規配備され、主要な臨床科もほぼそろってきており、質の高い医療、臨床研修が実践可能な環境が整っています。小樽ならではの落ち着いた雰囲気のもと、楽しくかつ真剣に研修できるプログラムの構築を心がけています。

初期研修の場合、１年目は主に必修科、２年目は選択科をローテーションしますが、選択科等の内容については各研修医の将来性・希望を考慮し、適宜調整を行っています。

救急症例にも積極的に参加してもらう機会も設け、年間を通して基礎的なセミナー、勉強会も企画しています。

エントランスホール　H27 年度研修医 10 名

医局カンファランスルーム

医局研修医スペース

地域医療連携

● 地域医療連携室

患者さんの紹介や逆紹介の担当窓口です。

当院の連携医療機関としてご登録いただきますと、ロビーにて「連携医療機関一覧」に掲示するほか、ホームページ上でのご紹介や連携医療機関個別リーフレットを作成しロビーに配備します。患者さんをご紹介いただく場合は、受診当日に患者さんをお待たせする時間を少なくするため、事前予約をお願いしています。

また、後志医療情報ネットワーク（ID－LINK）にご参加いただきますと、当院での患者さんの診療情報（画像や処方、検査内容など）をインターネット経由で参照できます。地域医療連携パスとして、脳卒中連携パスやがん地域連携パスの推進も行っています。

● 広報業務

広報誌『絆』や病院誌、病院パンフレットなどの発行のほか、ホームページの管理を行っています。

また、医療従事者を対象とした講演会や研修会、症例報告会の開催や住民（小樽市内・後志）を対象とした市民公開講座や健康教室も開催しています。

● 患者支援業務

院内に設置しているサービス向上委員会の活動を中心に、患者満足度調査や院内の設備改善、接遇向上、院内コンサートなど催し物の開催、さらには、地域貢献活動なども行っています。

病院ボランティアの皆さんとも連携して、患者さんが安心して快適に病院をご利用いただけるよう努めています。

● 医療相談室

患者さんやご家族からの医療全般に関する相談や入院・転院・退院後の生活相談、介護保険など社会保障制度に関する相談などについて、相談員（社会福祉士）が対応しています。

相談員が中心となり、入院患者さんの退院・転院の調整や支援を行っています。

入院の事前説明や手続きの支援につきましては、医事課「入退院受付」にて対応しています。

● がん相談支援センター

がん患者さんに対する相談支援のほか、「がん患者サロン」の開催、がん診療連携パスの推進を行っています。がん患者サロンには、他院への通院患者さんもご参加いただけます。

今後は、がん患者の会への支援協力や連携、がんに関する講演会等の企画についても実施してまいります。

連携病院登録数

・小樽市内	82
・後志管内	40
・札幌市内	31
・その他の市	1
合計	154

（平成 27 年 7 月 1 日現在）

院内の施設・設備

内視鏡室　１Ｆ

外来化学療法室　１Ｆ

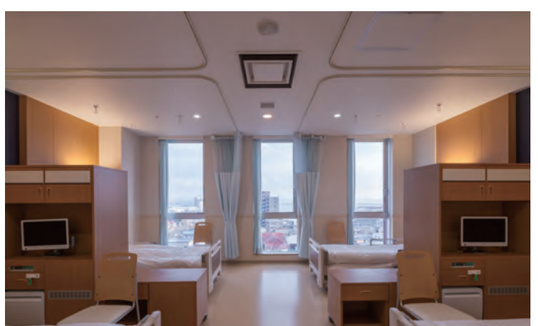
救急処置室　１Ｆ

手術ホール　２Ｆ

ICU　２Ｆ

透析室　２Ｆ

リハビリテーション室　２Ｆ


病室　４床室

施設概要

■建設概要

敷地面積	14,882.85 ㎡
建築面積	7,342.61 ㎡
延床面積	30,862.52 ㎡（実床面積 30,335.01 ㎡）
階数	地下１階、地上７階、搭屋１階
構造種別	鉄筋コンクリート造、免震構造
最高部の高さ	37.1ｍ（北西側地盤面より） 41.9ｍ（南西側地盤面より）

■病院の概要

病床数	388 床（一般 302 床、精神 80 床、結核４床、感染２床）
診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科
専門センター	消化器病センター、心臓血管センター、脳卒中センター、認知症疾患医療センター
駐車施設	旧市立小樽病院跡地に駐車施設約２５０台（H27.10 月完成予定～完成まで臨時駐車場約 100 台）、正面玄関前に車イス用６台

免震構造

小樽市立病院は、大地震時の建物被害や病院機能への影響が少なく、地震直後から医療活動を続けることができる「免震構造」を採用しています。「免震構造」は、地盤と建物との間に免震装置（積層ゴム等のアイソレータ、ダンパー）を設置し地震時のエネルギーを吸収して建物の揺れを低減します。

【ダンパー】

【アイソレータ】

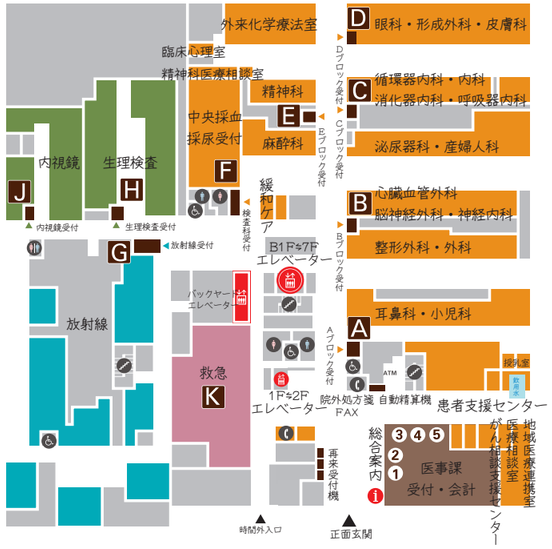
主な施設認定

- 臨床研修病院（基幹型・協力型）
- 北海道がん診療連携指定病院
- 災害拠点病院
- 初期被ばく医療機関
- 北海道 DMAT 指定医療機関
- 救急告示病院
- 小樽市二次救急医療機関（病院群輪番制病院）
- エイズ診療拠点病院
- 第二種感染症指定医療機関（結核病床・感染症病床）
- 北海道指定精神科病院
- 北海道指定精神科病院応急入院指定病院
- 北海道認知症疾患医療センター

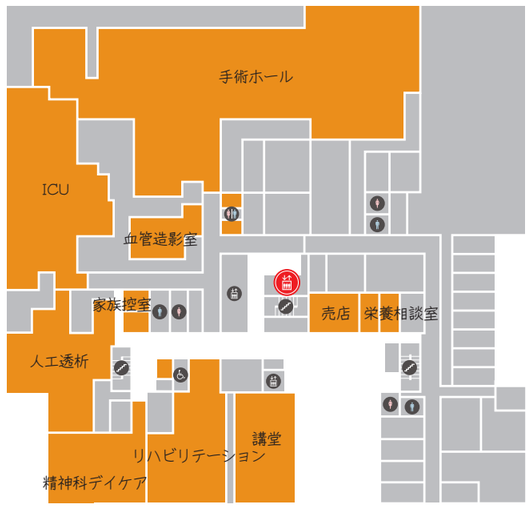
フロアマップ

●外来ゾーン

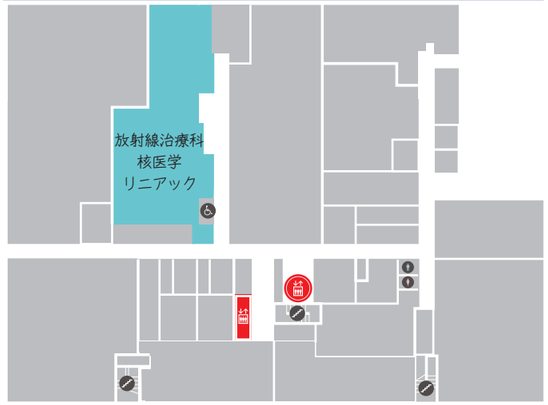
1Ｆ



2Ｆ



BF



7Ｆ

●病棟ゾーン（３Ｆ～７Ｆ）

３Ｆ

	東病棟（海側）	西病棟（山側）
7階	けんしんセンター・食堂・理容室	
6階	病棟	病棟
5階		
4階		
3階		